

令和元年度 放課後等デイサービス自己評価表(事業者)

《集計表》

		チェック項目	取組状況・改善目標	はい	どちらともいえない	いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	適切ではあるが、利用人数や活動内容によっては狭いと感ずることがある。よって活動の時間帯により、机や椅子等を片付けるなど、スペースを十分に確保する努力をしている。	8		
	2	指導員の配置数は適切であるか	配置基準より多くの職員を配置している。見守りや支援の必要性の高い子どもが多く利用する日やお迎え時間が重なった時等は、細かい配置計画を継続していく。	8		
	3	常時見守り等が必要な子どもが利用する場合には通常より多い指導員配置がなされているか	長期休暇中などの長時間の対応時、トイレ介助時や調理や外出等の活動時には、指導員を増員し、体制を整えている。	8		
	4	指導訓練室内は個々の子どもの状態に配慮した環境整備が行われているか	その都度出来る限りの配慮は行っているが、他害、多動、奇声などの障がい特性のある子どもの利用時は、落ち着かない空間となる場合があるので、静養スペースを確保するなど工夫している。	5	3	
	5	事業所内の安全対策及び衛生管理は適切になされているか	衛生管理については、適切に行っているため問題はない。安全対策については、使用頻度の少ない机や道具なども含め、今一度点検し、安全管理に努める。	8		
業務改善	6	業務改善を進める為のPDCAサイクルに、広く職員が参画しているか	日曜日や祝日も開所している関係で、非常勤職員も含めて職員全員での会議やミーティングが難しい状況である。そのような状況下ではあるが、全体会議の定期的実施を始め、全職員が参画できるように努力している。	4	2	
	7	保護者向け評価表、アンケートなどを利用して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者向け評価表を利用したり、普段から保護者のご意見を頂くノートを活用するなどして、保護者の意向等を把握し、業務改善につなげている。	7		
	8	この自己評価の結果を、ホームページ等で公開しているか	ホームページで公開している。	6	1	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者による外部評価については引き続き検討していく。	1	2	4
	10	職員の資質向上のため、研修の機会を確保しているか	県や市からご案内頂いた研修には、ほぼ必ず1名は参加している。内部研修も頻度は少ないが実施している。ただし非常勤の研修参加については時間制約があつて現実には難しい状況である。可能な限り参加できる配慮をしていきたい。	7	1	
	11	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	担当者会議、計画説明、送迎時などに保護者と話をしながら、子どもの状況把握を行い、個別支援計画書を作成し、説明を行っている。	7		
	12	子どもの状態と支援に対しての進捗を把握するために、アセスメントツールを継続的に使用しているか	継続して進捗把握をする機能を果たすアセスメントツールを検討し、使用していく。	7		
	13	活動プログラムの立案を必要に応じてチームもしくは複数名の職員で行っているか	児童発達支援管理責任者が統括する中、全体会議で活動プログラムに関して話し合える時間を設け、複数名の職員が関わりながら、プログラムの立案と実施に当たつての準備をしている。	7	1	
	14	子どもが楽しんでプログラムに取り組めるよう工夫しているか	毎月工夫してプログラムを作成し、ひと月のプログラム表を利用者へ事前に配布している。プログラムの説明を事前に行い、子どもたちが見通しを持って参加できるようにしている。	7	1	

適切な支援の提供	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせているか	個別活動と集団活動(活動プログラム)を時間配分し、日々組み合わせている。ただし、個別活動への職員の関わり方(支援・声かけ・見守り)については組織的かつ計画的にその方法を工夫し、職員全員で周知し、実施していきたい。	8		
	16	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日の支援内容や役割分担を確認しているか	毎日ミーティングを行い、参加できなかった職員には議事録で確認してもらっている。その日の現場状況により役割分担を行っている。	6	2	
	17	支援終了後職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	シフト制ゆえに全員が支援終了後に揃わないので難しいのだが、日々の活動記録表という書式を利用して支援の振り返り、気づいた点等を共有している。	6	1	1
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	利用者一人ひとりの活動記録を、その日関わった職員全員で記録し、情報共有できる体制はが出来ている。	7	1	
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6か月に1回は実施している。	8		
	20	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	厚労省のガイドラインに示されている基本活動を指針として、活動プログラムを作成している。	4	2	
関係機関や保護者との連携	21	相談支援事業所の担当者会議にその子どもの状況に精通した最も相応しい者が参画しているか	担当者会議の日程によっては、公休やシフトの関係で必ずしも最も相応しい者が参画できるわけではないが、できる限りそのように配慮している。	8		
	22	学校との情報共有(行事予定、下校時刻)連絡調整(送迎時の対応等)を適切に行っているか	学校との情報共有は基本的に保護者を通じて行っている。(学校から配布される行事予定プリント等を保護者に提供してもらうなど)また、学校へ送迎にうかがった際に、出来る限り先生とお話する時間を取って、情報共有を図っている。	8		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	必ずしも出来ているとは言えないので、引き続き、利用開始時の児童発達支援管理責任者の業務として位置づけ、相互理解を図っていききたい。	3	4	
	24	学校卒業後に障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	今後、進路先の事業所から求められれば、積極的に提供していきたい。	4	3	
	25	専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	利用者によっては必要な助言を受けている。ご案内を頂ければ研修にも参加している。今後は、事業所としてもっと積極的に連携できるように努めたい。	3	3	1
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	お買物体験やお出かけ体験等の活動を通じて、間接的に障害のない子どもと触れ合う機会はあるが、積極的にそのような場を設けてはいない。ガイドラインの方針にも反するが、保護者のご意見で、障がいのない子どもとの交流を望まない声も多く、事業所としても消極的にならざるを得ないところがある。	1		7
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	子どもの状況を、普段から必要に応じて伝え合っている。また、デイ日誌、連絡ノート、送迎時や面接等で情報共有を図る仕組みもできている。引き続き、課題とその解決方法を共有できるよう心掛けていきたい。	6	1	
	28	保護者の子どもへの対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援に関する情報提供を行っているか	ペアレントトレーニングの情報提供は行ったことがある。また、県や市から保護者向けの情報の案内を頂いた場合には、そのまま情報提供を行っている。今後、ペアレントメンターの研修などの情報も収集し、情報提供していけたらと考えている。	1	3	1

保護者への説明責任等	29	運営規程、支援の内容、利用者負担額等について丁寧な説明を行っているか	利用契約の締結時には、利用規約、運営規定、支援の方針と具体的な内容、利用者負担額や上限管理の仕組みと利用方法、利用のしおりを用いた具体的な利用方法まで丁寧に説明を行っている。	8		
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援をおこなっているか	保護者より子育ての悩みや相談を受ければ、必要に応じて、話し合いを持つなど、随時真摯に対応している。	7	1	
	31	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	今後の課題として検討したい。	6	1	
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	迅速かつ適切に苦情対応にあたっている。	7	1	
	33	個人情報に十分注意しているか	個人情報が記載されている文書は鍵付きのロッカーで保管し、それら文書の破棄にはシュレッダーを使うなど、個人情報の取扱には注意している。毎日の様子をカメラで撮影し、プリントアウトして持ち帰ってもらっているが、本人のみならず他の子どもの姿も映りこむので、事前にそのことの承諾書も頂いて運用している。	7	1	
	34	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	個々の子どもの特性に応じて、視覚支援等を用いるなど、情報伝達しやすいように配慮しています。保護者には、デイ誌や連絡ノートを活用するだけでなく、送迎時に直接お話ししたり、情報交換を行っている。	6	1	
非常時等の対応	35	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	保護者に対しては、まだまだ周知できていないので、今後もモニタリング等の機会を見つけて説明するなど、努力していきたい。	4	3	1
	36	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	今後は子どもたちと一緒に避難訓練を定期的で開催したい。		3	4
	37	虐待を防止する為、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	外部の研修会があれば参加している。また、そのような事例を情報として見聞きしたときには、事業所内で注意喚起している。ただ入社後、まだ未受講の職員がいたり、非常勤職員の外部研修への参加が困難な場合があるので内部研修会などを継続していきたい。	8		
	38	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うのかについて、支援計画に記載し、保護者に説明し了解を得ているか。	今後、虐待防止上必要とされる身体拘束の3原則を今一度全職員で確認し、周知徹底したい。職員の人員配置も基準以上の配置をし、専門性の向上に努めていきたい。個別支援計画に記載を行う際は、保護者に事前に説明し、了解を頂いている。	3	2	1
	39	アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	医師の指示書、または、保護者の申告に基づいて対応している。	7	1	
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハットの事例があった場合は、報告書を作成し、職員間で共有できるようにしている。事例検討をふまえ、全体会議のなかで取り上げるなど周知の徹底をしていきたい。また、事例集に載せる基準を明確にする必要がある。	7		1